

3) 上顎臼歯部

撮影目的：歯および歯周組織の病変である齲蝕と歯髄の関係、歯槽骨の状態および根尖病巣の有無や上顎洞疾患（歯性上顎洞炎など）との関係の観察。歯の交換期には乳歯根尖の吸収状態や後続永久歯の状態、および位置関係の観察。

撮影体位：被検者は坐位で開口位とし、上顎咬合平面は水平にする。フィルムは横方向で口腔内に挿入し、目的歯を中央に位置させる。歯冠部が欠けないよう術者の指で一度保持し、確認後被検者の手指で口蓋部に保持する（図4.29 a, b）。

中心線：第一大臼歯の根尖部を通り隣接する歯と重ならないように正放線投影で、歯軸とフィルム面のなす角度の二等分面に垂直に入射する。したがって上顎咬合平面に対する入射角度は、頭足方向に30°前後傾けることになる（図4.29 a, b）。中心線は、障害陰影となる頬骨突起および頬骨弓の下方を通過するよう注意

する。

撮影ポイント：フィルムが口蓋の形状により遠心方向で彎曲する場合には、第二大臼歯の根尖部が不鮮明となりやすい。その対策として、フィルム面と歯列が平行になるようにロール綿を歯とフィルムの間に挿入することで彎曲が補正でき、また歯軸とフィルムが平行に近づくため頭足方向の入射角度が小さくなり、頬骨突起の障害陰影と歯の形態歪みを少なくできる（図4.29 c, d）。上顎大臼歯部の撮影では、ロール綿を常時用いることが理想である（図4.29 b）。ロール綿を使用せずに第二大臼歯を撮影する場合には、やや遠心方向から入射することで隣接面は少し重なるが、根尖部は鮮明に描出される。上顎臼歯部ではフィルムが遠心方向で下方にずれることが多く注意が必要であり、被検者にはフィルムを上方に押し上げる気持ちで保持するように説明するとよい。



図4.29 a 右側臼歯部撮影体位と入射方向

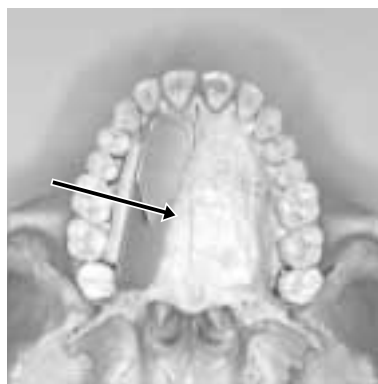


図4.29 b フィルムの位置づけと入射方向



図4.29 c 右側臼歯部X線写真

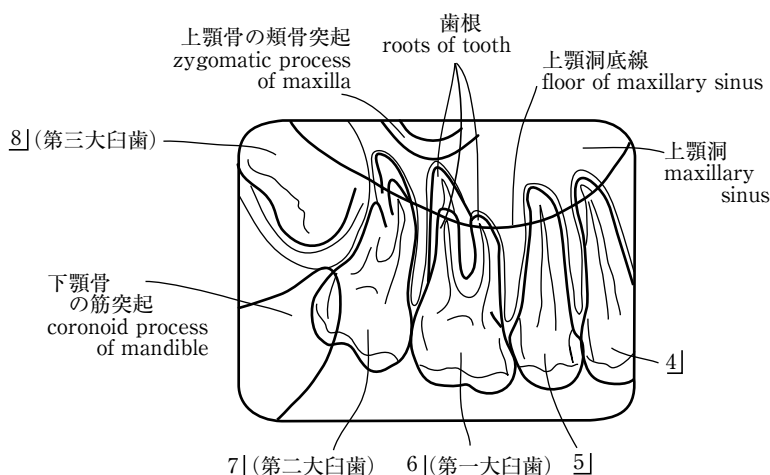


図4.29 d 右側臼歯部X線写真図譜